

氏 名	太田 淳子（おおた じゅんこ）
学 位 の 種 類	博士（老年学）
学 位 の 番 号	博甲第 130 号
学位授与の日付	2025 年 3 月 11 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	高齢者の熱中症リスクアセスメントツールの開発

論文審査委員	(主査) 桜美林大学教授	新 野 直 明
	(副査) 桜美林大学教授	中 谷 陽 明
	桜美林大学教授	渡 辺 修 一 郎
	東京医科大学主任教授	浜 岡 隆 文

論文審査報告書

論文目次

第 1 章 緒言	1～5
I. 研究背景	1～4
II. 研究目的と研究意義	4～5
III. 本論文の構成	5
第 2 章 研究 1 「高齢者の熱中症リスクアセスメントツールの開発－質問項目の内容妥当性と原案作成－」	6～10
I. 研究目的	6

II. 方法	6～8
III. 結果	8～9
IV. 考察	9～10
V. まとめ	10
第3章 研究2「高齢者の熱中症リスクアセスメントツールの質問項目における信頼性の検討」	11～14
I. 研究目的	11
II. 方法	11～12
III. 結果	12～13
IV. 考察	13～14
V. まとめ	14
第4章 研究3「高齢者の熱中症リスクアセスメントツールによる熱中症リスクの評価ー地域在住高齢者の横断調査からー」	15～21
I. 研究目的	15
II. 方法	15～16
III. 結果	16～18
IV. 考察	19～20
V. まとめ	20～21
第5章 総合考察	22～23
引用文献	I～IV
図表	i～xxi

論文要旨

本研究は、地域在住高齢者の家族など身近な周囲の人たちが、高齢者の熱中症発症リスクを身体的、心理的、社会的、環境的側面から簡便かつ客観的に特定・評価できる高齢者の熱中症リスクアセスメントツールを開発することを目的とした。

研究1では、高齢者の熱中症リスクアセスメントツールの質問項目の原案作成を行い、その作成過程で内容妥当性の検討を行った。その結果、質問項目の原案は46問作成された。

研究2では、第1研究で作成した質問項目の信頼性の検証と精選を目的に、項目分析を行った。通過率、無答率の確認と質問項目の点数の高低2群に分けて群間比較を行い質問項目が採択できるか検証した。その結果、質問項目24項目が採択された。

研究3では、地域在住高齢者に対する高齢者の熱中症リスクアセスメントツールを用いた横断調査から、高齢者の熱中症リスクを評価し、その結果から熱中症の予防取り組み状況を検討した。その結果、熱中症発症後の再発予防の取り組みの有無と各質問項目との間に有意な関連はなかった。しかし、再発予防に取り組んでいると回答した人たちにおいても室内温度、夜間・就寝中の冷房使用に課題を残していることがわかった。これは、分析対象者全体の熱中症予防取り組みにおいて検討した際にも同様に課題を残していた。

また、研究3では、事例検討により、高齢者の熱中症リスクアセスメントツールを用いて熱中症リスクを特定し、現在の取り組み状況の課題を評価した。その結果、一人ひとりに適した予防策を具体的に提案することができるのか検討した。その結果、各高齢者の身体的、心理的、社会的、環境的な熱中症リスクに応じた個別のリスク評価が可能となり、一人ひとりに適した予防策を具体的に提案することができた。

論文審査要旨

地域在住高齢者の身近な人たちが高齢者の熱中症発症リスクを身体的、心理的、社会的、環境的側面から簡便かつ客観的に評価できる高齢者の熱中症リスクアセスメントツールを開発することを目的とした研究論文である。

近年の重要な問題である高齢者の熱中症に着目した点で、社会的意義は高い。

研究1から研究3と目的に沿って系統的に進められており、論文構成も整っている。結果として、在宅高齢者の家族など専門職でない者が活用できる高齢者熱中症リスクアセスメントツールが開発された。また、事例検討により熱中症予防の再発防止に取り組んでいる対象者においても一定の課題が残っていることが示され、一人ひとりに適した予防策を具体的に提案するという今後の利用に期待が持てる結果が得られた。

以上から、本論文は博士論文としての水準を満たしているという判断がなされ、合格と判定された。

口頭審査要旨

30 分間の発表と 30 分間の質疑応答が行われた。

審査委員より、温暖化の進行、熱中症の増加、高齢者では熱中症リスクの自己評価が困難で第 3 者の注意が重要などの点から極めて意義のある研究である、適切な手法でツール作成が進められた点も評価できるというコメントがあった。

開発されたツールの利用法について質問があり、リスクの程度とその対処法、調査実施頻度、個別のリスクにそった対象者と周囲の人の啓発等に関する回答があり、今後はそれらの内容を含んだ使用マニュアル的なものを作成していきたいという発表者の将来構想も述べられた。予測妥当性の検討方法、ツールにおける対象者の知識と周囲の人の配慮内容に関する質問方針、論文内の文言表記についてもコメントがあり、それに対する発表者の考えが述べられた。

その他に、今後は、在宅高齢者だけではなく働く高齢者の熱中症リスクに関するアセスメントツールの開発も考えて欲しいという審査委員の希望も述べられた。

質問、コメントに対する発表者の対応・内容は適切なものであり、博士の水準にあると評価された。以上から、審査委員の全員一致で合格の判定がなされた。